

2025年4月16日 無料セミナー
はじめてのイノベーション・マネジメントシステム

～ ISO56001 / ISO56002(イノベーション・マネジメントシステム)～

アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて

イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて

イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

スピーカー紹介

大塚 和彦 (おおつか かずひこ)



株式会社システムコンシェルジュ
取締役 兼 Chief Innovation Officer

略歴

1967年、埼玉県生まれ。幼少期にゲームを禁止され、どうしてもゲームがやりたいのでアセンブリ言語とBASIC言語でゲームプログラムの開発を行う。
大学卒業後、営業職を希望し、リコー情報システム株式会社（現リコージャパン）に入社。MA事業部にて、主に新規顧客開拓、新規事業立ち上げに関わる。その後も数社に転職し、ほとんどが新規顧客開拓、新規事業立ち上げに関わる経験をもつ。

2023年4月、株式会社システムコンシェルジュに入社し、イノベーション活動（事業創出など）を行いながら、業務・インフラ・アプリケーションなど多種多様な経験から、お客さまのお悩みを解決するコンシェルジュとして活動を行なっている。

- 20代：新卒から入社2年目頃から新規事業や新規顧客、新しいソリューション創造に関わる
- 30代前半：家業の製麺会社にてラーメン店、中華料理店に食材を提供
- 30代後半：大手SI関連会社にて新規顧客、新規事業に関わる
- 40代前半：海外製品の日本法人立ち上げ、および別会社の新規事業の立ち上げ
- 40代後半：大手SI会社のオープンソース事業に関わる
- 50代前半：2019年2月にIPOしたプロジェクト管理／ナレッジ管理の会社に関わる
- 現在：新規事業、新規顧客、IPOなどの経験を活かし、イノベーション管理ツールをベースとした価値創造の仕組みや方法論のサービス提供

スピーカー紹介

大塚 和彦 (おおつか かずひこ)



株式会社システムコンシェルジュ
取締役 兼 Chief Innovation Officer

略歴

1967年、埼玉生まれ。大学卒業後、営業職を希望し、リコー情報システム株式会社（現リコージャパン）に入社。MA営業部に在り、主に新規顧客開拓、新規事業立ち上げに関わる。その後も数社にて営業職に携わり、営業に関する経験をもつ。

新規事業開発 / 新規顧客開拓

ナレッジ管理

文書情報管理

プロジェクト管理

事業継続

- 20代：新卒から入社2年目頃から新規事業や新規顧客開拓に関わる
- 30代前半：家業の製麺会社にてラーメン店、中華料理店に食材を提供
- 30代後半：大手SI関連会社にて新規顧客、新規事業に関わる
- 40代前半：海外製品の日本法人立ち上げ、および別会社の新規事業の立ち上げ
- 40代後半：大手SI会社のオープンソース事業に関わる
- 50代前半：2019年2月にIPOしたプロジェクト管理／ナレッジ管理の会社に関わる
- 現在：新規事業、新規顧客、IPOなどの経験を活かし、イノベーション管理ツールをベースとした価値創造の仕組みや方法論のサービス提供

アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて

イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

会社概要

会社概要

会社名	株式会社システムコンシェルジュ	設立	2005年7月26日
代表取締役	飯田 健夫	資本金	1,000万円
所在地	東京都千代田区神田錦町2-11-7	従業員数	45名（役員・従業員・契約社員含む）
TEL	03-5577-5735	事業内容	・イノベーション創出・組織文化醸成事業 ・ビジネスプロセスアウトソーシング（BPO）事業 ・ジェネレーティブプロバイダー事業
拠点	大阪オフィス 大阪府大阪市北区曾根崎新地2-3-13 若杉大阪駅前ビル803号室 宮古島オフィス 沖縄県宮古島市平良字西里1018番地1 マティダヒルズ102号	主な取引先 （50順）	株式会社エヌオーイー 株式会社飯田産業 岐阜女子大学 株式会社SOYOKAZE 株式会社スコープ 田島ルーフィング株式会社 TIS株式会社 株式会社ヒューマントラスト 株式会社阪急交通社 株式会社マクシスコポーレーション メディカル・データ・ビジョン株式会社 株式会社ユニマットライフ
福利厚生	関東ITソフトウェア健康保険組合 福利厚生サービス：リロクラブ オフィス内：リフレクソロジー/カイロプラクティック/ロルフイング/コーヒー無料 退職金制度		

事業内容

イノベーション創出・組織文化醸成事業

イノベーションおよびデジタルトランスフォーメーション(DX)の方法論を基軸とした3つのプロダクトの販売、設定、組織定着および活用支援などを展開しています。

IDEASCALE

イノベーション管理



プロジェクト管理



ナレッジ管理

MAJORFLOW

ワークフロー

BizRobo!

RPA (業務自動化)

ビジネスプロセスアウトソーシング (BPO) 事業

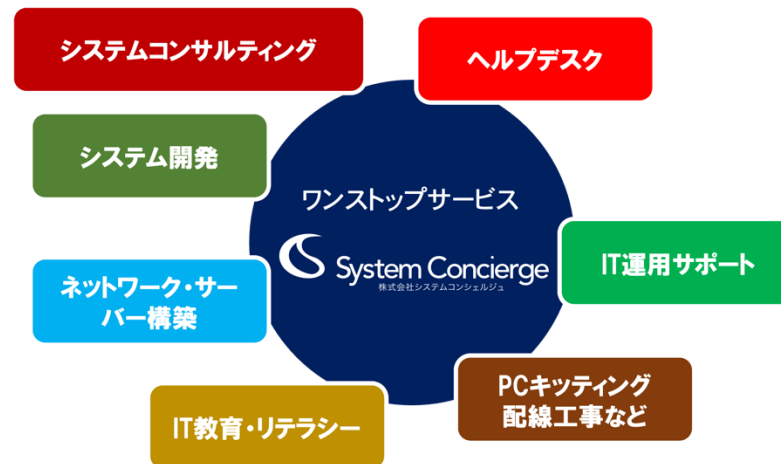
情報システム部門やマーケティング部門の業務アウトソーシングを請け負います。

他社から導入した製品やサービスが期待通りではなかったなどのお悩みや、新規事業創出やイノベーションのためのリソースが調達できない場合などのお悩みなどに対応します。

ジェネレーティブプロバイダー事業

私たちはお客さまのお悩みから、多種多様な解決方法論を提案し、方法論からツールなどの具体的な技術手段へブラッシュアップし、導入から運用支援、活用支援まで行います。

RFP作成などお客さまに負担をかけずにお悩みを解決するための伴走を行いながらツール導入や基盤構築を提供するのがジェネレーティブプロバイダーです。



7つの経験が可能にするワンストップサービス

当社の強み

当社の強み



IT Infrastructure (IT基盤技術)

堅牢なIT基盤がなければアプリケーションを稼働させることはできません。私たちはThe Linux Foundationという組織を支援する日本を代表するエンジニアを技術顧問とし、最新のIT技術を求めつつ、過去の技術にも目を向けお客さまが求める最適な技術の探求とサービス提供を行います。

IT Tools (先進的なツール活用)

変化に素早く対応するには、活用できる技術やツール、ライブラリなどを知り、実際に利用することが重要です。私たちはITツールや技術を探求し、実際に体感することで最高のサービスが提供できると考えています。私たちの社内では多くのツールを活用しています。

IT Practices (成功と失敗によって研鑽される方法論)

ツールや技術自体は価値とはいえません。価値を感じてくれるお客さま、喜んでくれる方々がいて価値に変えることができます。予測不可能な社会のなかで継続的な価値を提供するために、日本初の国際標準企画ISO56002 (イノベーション・マネジメントシステム) の認証を取得し、他では実践していないイノベーションの仕組みを作りました。この仕組みや方法論をお客さまへサービス提供し、「私たちからお客さまへ」「お客さまから私たちへ」それが私たちの考えるチームワークと価値あるサービスの方法論です。

当社の強み

日本国内初のISO56002（イノベーション・マネジメントシステム）の認証取得

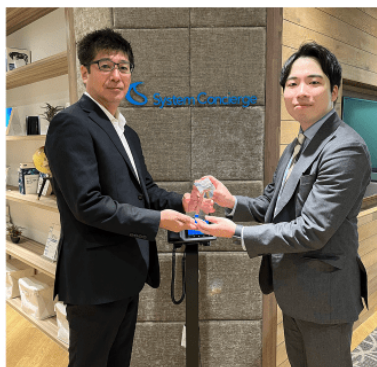


イノベーションの国際標準規格「ISO56002」とは

「ISO56002」は、世界中のイノベーションを起こした企業のマネジメント手法を分析し、考え方や方法論を体系化したイノベーション・マネジメントシステムの国際標準規格です。新しい価値を創出し、価値の継続と向上を実現するためのガイドラインです。



人材育成・組織開発に関するアワード受賞



【ラーニングイノベーションアワード2023】とは

人的資本情報の開示が義務化され、人的資本経営への注目が日々高まる中、多くの日本企業が人材投資による取り組みを加速しています。ALL DIFFERENT株式会社は、人材育成に取り組む企業に様々な事例を紹介し、新たな知見や視点を提供するために、年に一度「ラーニングイノベーションアワード」を開催し、人材育成・組織開発において優れた取り組みを行っている企業を表彰しています。ラーニングスパイラル賞は、「気づく」「学ぶ」「できる・変わる」「続ける」の全ステップを構築し、実効を上げている企業に授与されます。

主要な顧客

旅行・観光業界



金融・保険業界



製造業界



IT業界



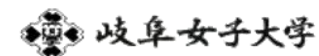
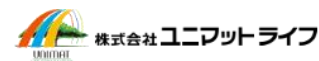
介護・ヘルスケア業界



広告・メディア業界



その他、人材派遣・飲食など

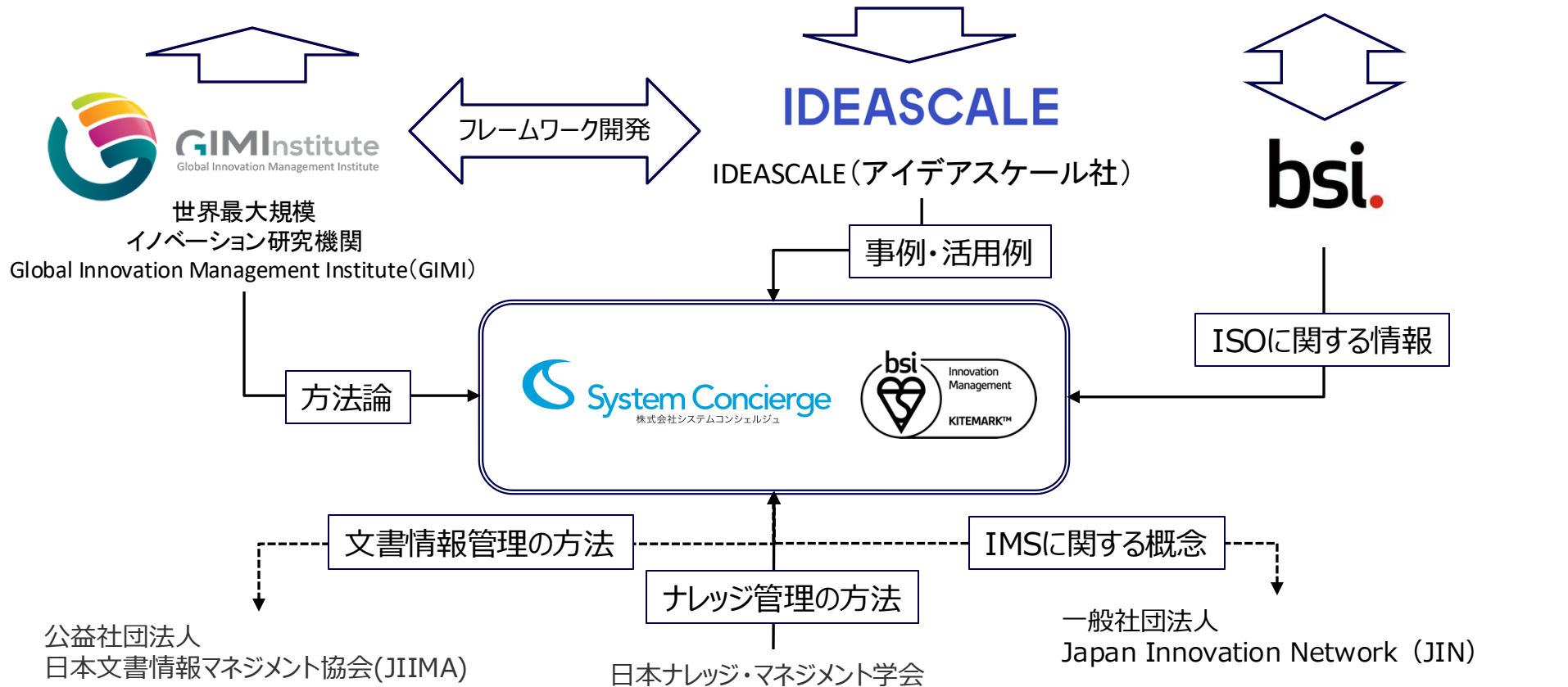


イノベーション・マネジメントシステムに関する関係チャネル

ISO56001 / ISO56002策定への協力

イノベーション活動に関する事例

ISO56001/ISO56002認証審査



アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて

イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

本セミナーの目的

1. イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の必要性の理解
2. イノベーション・マネジメントシステム（IMS）の概要の理解
（主にISO56001に関する概要 / ISO56001とISO56002の差分など）
3. 株式会社システムコンシェルジュのサービスの理解

アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて

イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

イノベーション・マネジメントシステムについて

はじめに

ISO56000シリーズ

ISO56001の基本

ISO56002との差分

なぜ、イノベーション・マネジメントシステム（IMS）が必要なのか？

イノベーションを“偶然”ではなく“意図的に”起こすため

価値を継続的に生み出し、競争力を保つため

組織全体を巻き込む文化と仕組みをつくるため

不確実性とリスクを“管理しながら”挑戦するため

外部からの信頼を得るため（パートナー・投資家・顧客など）

なぜ必要なのか？

イノベーションは
管理可能なのか？

なぜ国際標準規格化
されたのか？

IMSに取り組みない
とどうなるか？

イノベーションは管理可能なのか？

管理できないと感じる理由

イノベーションは偶然の産物であり、
管理できない



発想は偶然でも、それを拾い、形にし、評価
するプロセスは設計できる（=管理できる）

管理＝ルールで縛ること



「自由に考えられる環境」や「挑戦を評価する文化」を仕組みで支える

制度を作っても現場は動かない



トップのコミットメント＋現場の巻き込み＋評価と改善のサイクルが前提

成功したイノベーションは
再現できない



単発の成功は偶然でも、「成功が生まれやすい流れ」は再現可能

実際の考え方

なぜ必要なのか？

イノベーションは
管理可能なのか？

なぜ国際標準規格化
されたのか？

IMSに取り組みないと
どうなるか？

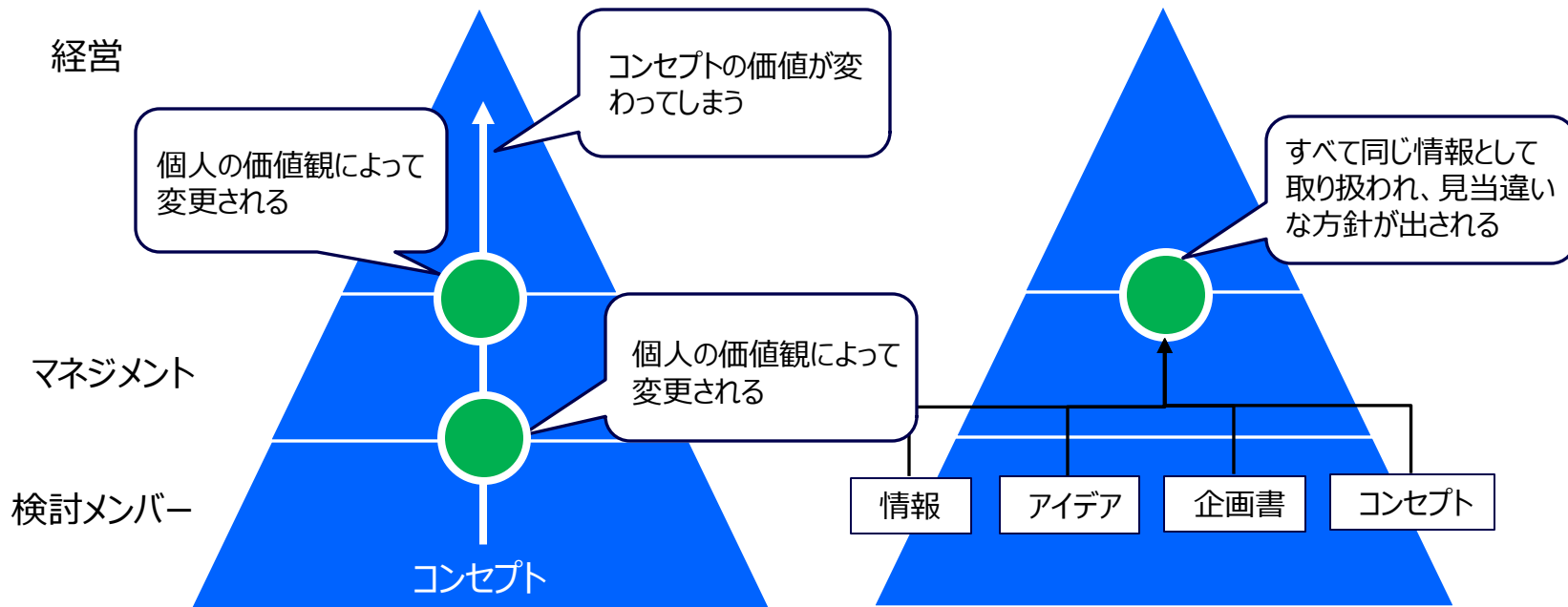
イノベーションは管理可能なのか？

なぜ必要なのか？

イノベーションは管理可能なのか？

なぜ国際標準規格化されたのか？

IMSに取り組みないとどうなるか？



それ以外にも、情報元が特定領域や外部情報のみという偏った情報で機会を特定してしまうというケースがある。

イノベーションは管理可能なのか？

なぜ必要なのか？

イノベーションは管理可能なのか？

なぜ国際標準規格化されたのか？

IMSに取り組みないとどうなるか？

経営

コンセプトの価値が変わってしまう

マネ

検討

イノベーションの仕組みが必要になっている

で、そのための情報提供は、従来のような情報提供の仕組みで済むのではなく、サービスがある。

なぜ国際標準化されたのか？

INNOVATION world
新時代のイノベーションとDXの最新情報メディア

記事一覧 特集 カテゴリ ABOUT 検索 コンシェルジュへ相談

特集記事
イノベーションの国際標準規格化 (ISO化) は有用なのか？
著者: INNOVATION WORLD 編集部 25.02.19

HOME > 特集記事 > イノベーションの国際標準規格化 (ISO化) は有用なのか？

KEYWORD #ISO56001関連 SHARE

目次

- イノベーションの国際規格を作ることには有用なのか？
 - ▶内容を改めて確認してみる
 - ▶国際規格の制定は良いアイデア
 - ▶注意点もある
 - ▶最も重要な前提条件の要素が欠けている
 - ▶不完全でも挑戦を始めることに価値がある

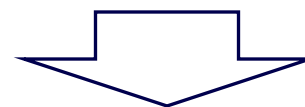
共通言語化する

イノベーションを起こしやすくする

協働・共創ビジネスの推進

企業の将来への安心感

さまざまなISOを連携・統合



ですが注意点もある。
(正しく理解しないと機能しない)

なぜ必要なのか？

イノベーションは
管理可能なのか？

なぜ国際標準規格化
されたのか？

IMSに取り組みない
とどうなるか？

イノベーション・マネジメントシステム（IMS）に取り組まない弊害

代表的な弊害（一部、もしくはすべてが発生する）

分類	弊害の内容	説明・影響
戦略の欠如	イノベーションがバラバラで場当たり的になる	「何のために」「どこを目指して」いるのが不明確なため、時間・コストのムダが発生する
属人化	一部の人のアイデア頼りになる	特定社員に依存し、担当者が異動・退職するとノウハウが失われる
再現性の欠如	成功・失敗の学びが蓄積されない	組織に知見が残らず、同じ失敗を繰り返す。成長サイクルが生まれない
リスクへの無防備さ	不確実性への備えがなく、失敗時に混乱する	チャレンジが少なくなり、守りに入りがち。イノベーション文化が萎縮する
部門間の分断	サイロ化して連携できない	アイデアが埋もれる、知識が共有されず、横断的な取り組みが進まない
社外との連携が弱まる	パートナーや投資家から信頼されにくい	共通のフレームがないため、オープンイノベーションや共同開発の障害になる
人材の成長機会を奪う	社員の挑戦意欲が失われる	提案しても活かされない風土になり、離職やモチベーション低下を招く
変化に取り残される	環境変化に対応できず、競争力が低下	顧客ニーズの変化や新技術に反応できず、市場からの存在感を失っていく

なぜ必要なのか？

イノベーションは管理可能なのか？

なぜ国際標準規格化されたのか？

IMSに取り組まないとどうなるか？

イノベーション・マネジメントシステムについて

はじめに

ISO56000シリーズ

ISO56001の基本

ISO56002との差分

ISO56000シリーズについて

2013年に設立された50ヶ国以上が参加するISO/TC279というイノベーションマネジメントシステム（Innovation Management System, IMS）のISO技術委員会より、2019年7月にイノベーションの国際標準規格として策定されたものがISO56002（イノベーション・マネジメントシステム）です。

そして2024年9月10日にISO56001が発表されました。

この規格は、企業や組織が効率的にイノベーションを管理し、持続可能な競争優位性を維持するためのフレームワークを提供します。

マネジメント規格

2024年9月10日発行

ISO 規格番号	日本語タイトル	主な内容
ISO 56001	イノベーションマネジメントシステム — 要求事項	イノベーションマネジメントシステムの要求事項を規定。

2019年7月発行
2023年：JIS規格化
JIS Q 56002:2023イノベーション・マネジメントシステム

基本規格

ISO 規格番号	日本語タイトル	主な内容
ISO 56000	イノベーションマネジメント — 基礎と用語	イノベーションマネジメントに関する基本概念と用語の定義。
ISO 56002	イノベーションマネジメント — イノベーションマネジメントシステム — ガイダンス	イノベーションマネジメントシステムの実装ガイドライン。

個別規格

ISO 規格番号	日本語タイトル	主な内容
ISO 56003	イノベーションマネジメント — イノベーションパートナーシップのためのツールと方法	イノベーションパートナーシップを形成するための方法論。
ISO 56004	イノベーションマネジメント評価 — ガイダンス	イノベーションマネジメントの評価方法に関するガイド。
ISO 56005	イノベーションマネジメント — 知的財産管理のためのツールと方法	イノベーションにおける知的財産管理のガイドライン。
ISO 56006	イノベーションマネジメント — 戦略的インテリジェンス管理 — ガイダンス	戦略的インテリジェンスの管理方法に関する指針。
ISO 56007	イノベーションマネジメント — アイデアマネジメント	アイデア管理のためのプロセスとツール。
ISO 56008	イノベーションマネジメント — イノベーション運用測定のためのツールと方法	イノベーション活動の測定および評価のためのツールと方法。
ISO 56010	イノベーションマネジメント — ISO 56000の実例集	ISO 56000シリーズの概念を説明するため、さまざまな業界の具体例を提供。イノベーション管理システムを理解しやすくするための事例や図解が含まれています。

イノベーション・マネジメントシステムについて

はじめに

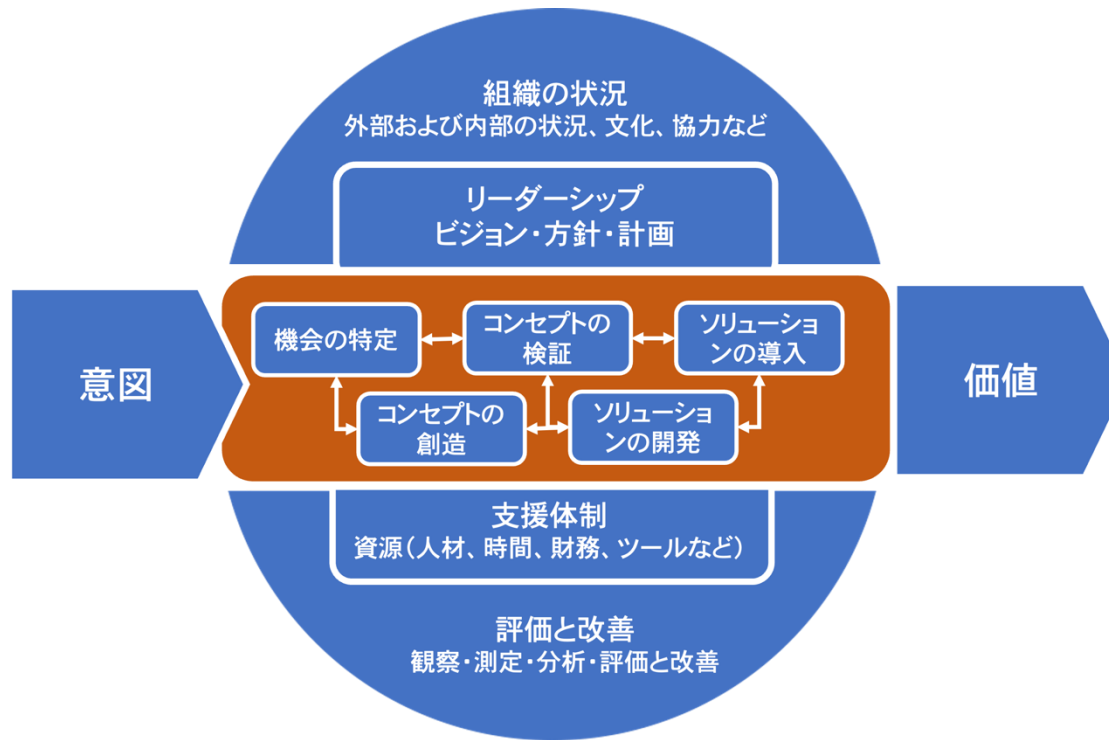
ISO56000シリーズ

ISO56001の基本

ISO56002との差分

ISO56001（イノベーション・マネジメントシステム）の概念図

ISO 56001の基本体系は、ISO56002と同じとなります。



章	タイトル
1	適用範囲
2	引用規格
3	用語及び定義
4	組織の状況
5	リーダーシップ
6	計画
7	支援体制(サポート)
8	活動
9	パフォーマンス評価
10	改善

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

各要求事項との関連図（管理レベル）

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

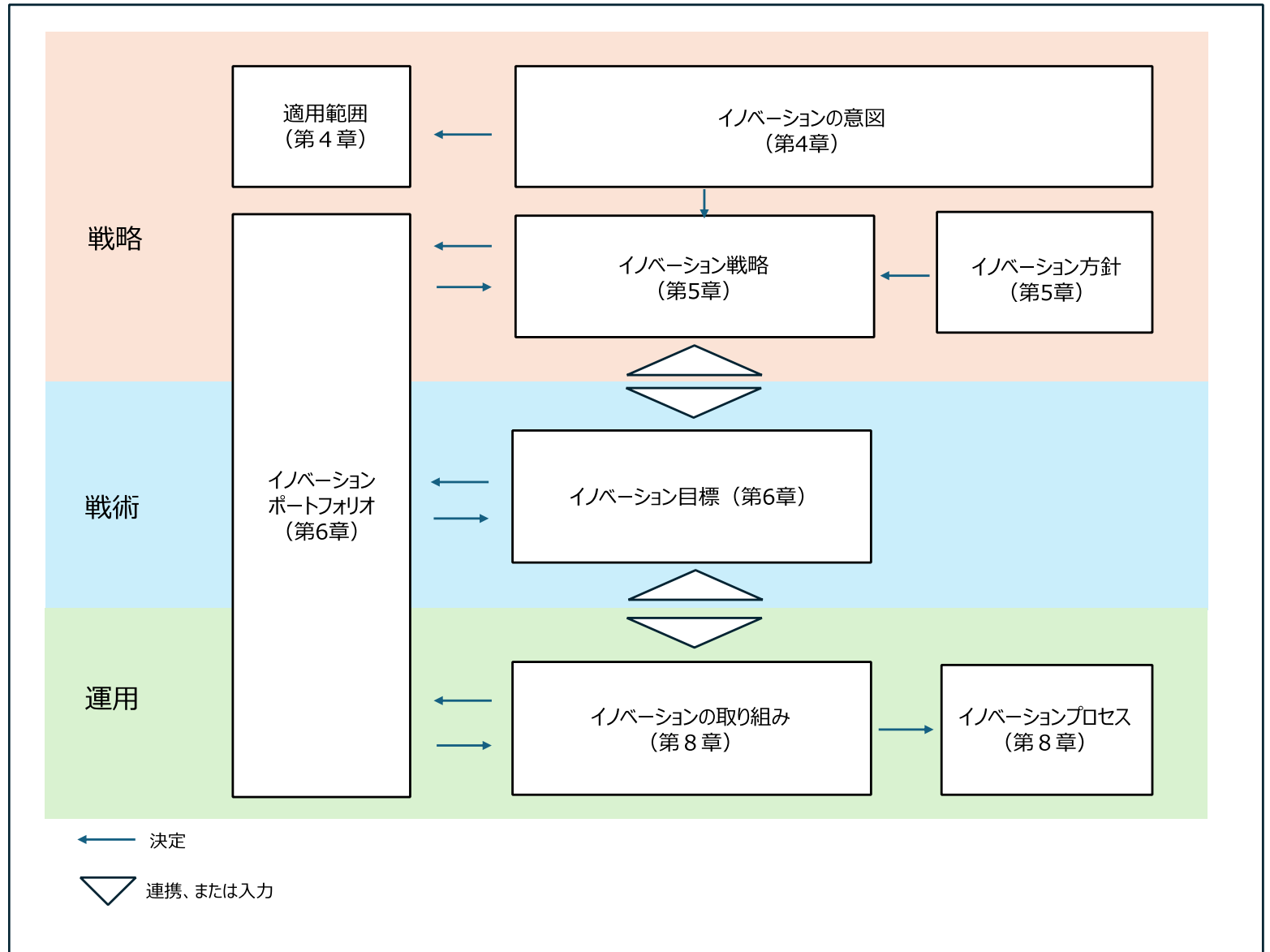
計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善



組織の状況

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

番号	項目	目的	具体的にやること
4.1	組織とその背景の理解	組織を取り巻く内外の環境変化を把握	- 外部環境（市場・技術・規制など）を分析 - 内部資源（人材、文化、強み・弱み）を見直す
4.2	利害関係者のニーズと期待を理解	誰が影響を受けるか／与えるかを整理	- 顧客、従業員、株主、行政などの要望を把握 - 期待に応えるべき領域を明確にする
4.3	イノベーション・マネジメントシステムの範囲の決定	IMSをどこまでの範囲で適用するかを明確化	- 適用対象（製品、部門、地域など）を決める - 除外範囲があれば理由を明記
4.4	イノベーション・マネジメントシステム(IMS)の構築	組織に合ったイノベーションの仕組みを作る	- IMSの構成要素（方針・目標・プロセス等）を定義 - 他のISO（品質・環境など）との連携も検討



System Concierge Insight

Top > Resources > System Concierge Insights > ONES製品を活用した『情報判断の仕組み』の設定手順書を公開

プレスリリース 2024年9月18日

ONES製品を活用した『情報判断の仕組み』の設定手順書を公開

2024年09月18日

報道関係者各位

株式会社システムコンシェルジュ

ONES製品を活用した『情報判断の仕組み』の設定手順書を公開

株式会社システムコンシェルジュ(東京都千代田区、代表取締役社長：飯田 健夫)は、国内初のISO56002(イノベーション・マネジメントシステム)認証取得企業です。このたびISO56002(イノベーション・マネジメントシステム)の認証取得の際に活用した『情報判断の仕組み』を設定するための手順書を無料公開いたします。この仕組みはISO9001やISO27001など、ISOの共通事項となる「組織の状況」に活用できるためISO認証取得企業のISO運用を支援するものと考えております。

「組織の状況」に対応するための無料でスモールスタートできる方法を公開中です。

<https://systemcon.co.jp/resources/articles/press/press-20240918/>

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

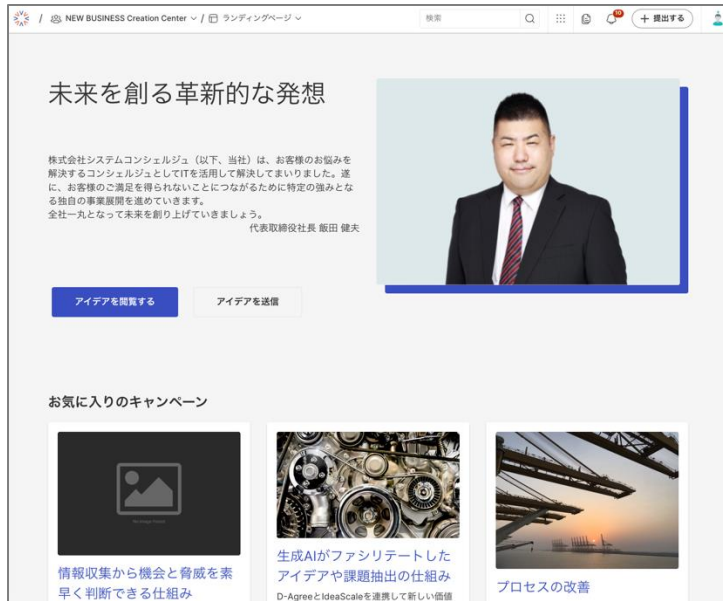
パフォーマンス

改善

リーダーシップ

要求事項の要約

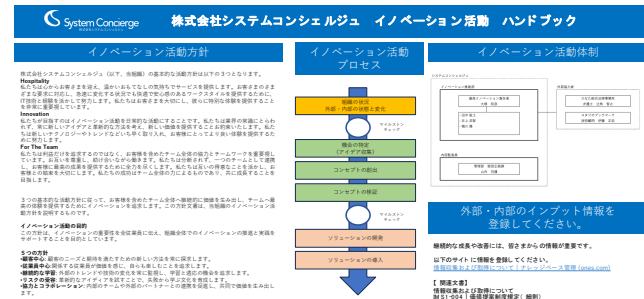
番号	項目	目的	具体的にやること
5.1	リーダーシップとコミットメント	トップマネジメントが主体的に関与すること	- IMSを経営の重要課題として扱う - 必要な資源（人・お金・時間）を確保する - 現場との対話を通じて支援を示す
5.2	イノベーション方針の策定と伝達	組織全体の共通の方向性を明確にする	- 「我々はなぜイノベーションをするのか？」を定義 - 方針を社内全体に明確に伝える
5.3	イノベーション戦略の策定と共有	具体的な目標や重点領域を設定する	- どの分野・技術・市場に注力するか決める - 中長期の目標を明文化する
5.4	イノベーション文化の推進	創造性・挑戦・協力を促す文化づくり	- 失敗を許容する風土づくり - 社員の提案を歓迎する制度や雰囲気を整える
5.5	役割・責任・権限の明確化	組織の中で誰が何をするかをはっきりさせる	- イノベーション責任者（CxOや部門長）を任命 - 各チームの役割や判断権限を明示する



イノベーション管理ツール「IDEASCALE」のランディングページ機能

トップメッセージ：決意表明と意思を伝える
現場との対話：（例：未来トーク、1 on 1など）
ランディングページ：すべての活動が公開される
ハンドブック：認知活動をするためのハンドブック

認証取得：
ISO56001認証取得によって、認知度が組織全体に広がる



リーダーシップ

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善



株式会社システムコンシェルジュ イノベーション活動 ハンドブック

イノベーション活動方針

株式会社システムコンシェルジュ（以下、当組織）の基本的な活動方針は以下の3つとなります。

Hospitality

私たちは心からお客さまを迎え、温かいおもてなしの気持ちでサービスを提供します。お客さまのさまざまな要求に対応し、急速に変化する状況でも快適で安心感のあるワークスタイルを提供するために、IT技術と経験を活かして努力します。私たちはお客さまを大切に、彼らに特別な体験を提供することを非常に重要視しています。

Innovation

私たちが目指すのはイノベーション活動を日常的な活動にすることです。私たちは業界の常識にとらわれず、常に新しいアイデアと革新的な方法を考え、新しい価値を提供することをお約束いたします。私たちは新しいテクノロジーやトレンドなどいち早く取り入れ、お客様にとってより良い体験を提供するために努力します。

For The Team

私たちは利益だけを追求するのではなく、お客様を含めたチーム全体の協力とチームワークを重要視しています。お互いを尊重し、助け合いながら働きます。私たちは分断されず、一つのチームとして連携し、お客様に最高の成果を提供するために全力を尽くします。私たちは互いの得意なことを活かし、お客様との結束を大切にします。私たちの成功はチーム全体の力によるものであり、共に成長することを目指します。

3つの基本的な活動方針に従って、お客様を含めたチーム全体へ継続的に価値を生み出し、チームへ最高の体験を提供するためにイノベーションを追求します。この方針文書は、当組織のイノベーション活動方針を説明するものです。

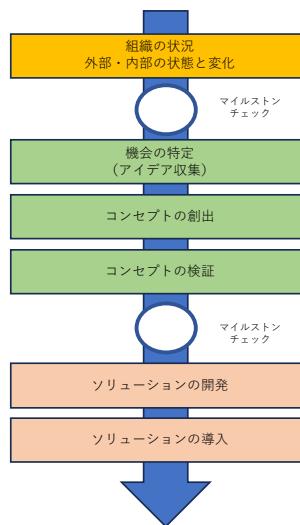
イノベーション活動の目的

この方針は、イノベーションの重要性を全従業員に伝え、組織全体でのイノベーションの推進と実践をサポートすることを目的としています。

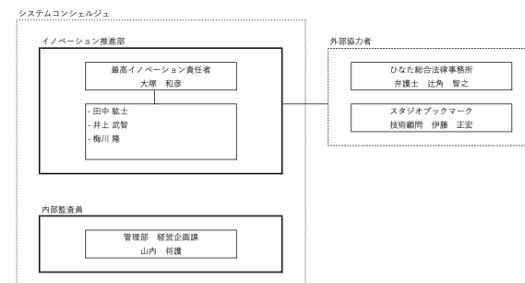
5つの方針

- 顧客中心: 顧客のニーズと期待を満たすための新しい方法を常に探求します。
- 従業員中心: 関係する従業員が価値を感じ、自らも楽しむことを追求します。
- 継続的な学習: 外部のトレンドや技術の変化を常に監視し、学習と適応の機会を追求します。
- リスクの受容: 革新的なアイデアを試すことで、失敗から学ぶ文化を育成します。
- 協力とコラボレーション: 内部のチームや外部のパートナーとの連携を促進し、共同で価値を生み出します。

イノベーション活動プロセス



イノベーション活動体制



外部・内部のインプット情報を登録してください。

継続的な成長や改善には、皆さまからの情報が重要です。

以下のサイトに情報を登録してください。
[情報収集および取得について | ナレッジベース管理 \(ones.com\)](#)

【関連文書】
情報収集および取得について
IMS1-004 | 価値提案制度規定(細則)

2023年7月1日作成
2023年10月1日改定

株式会社システムコンシェルジュ内のハンドブック

リーダーシップ

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

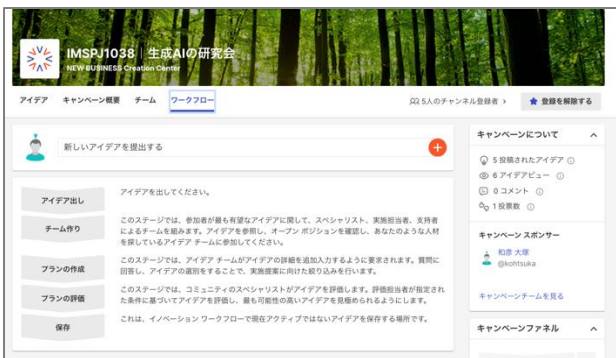
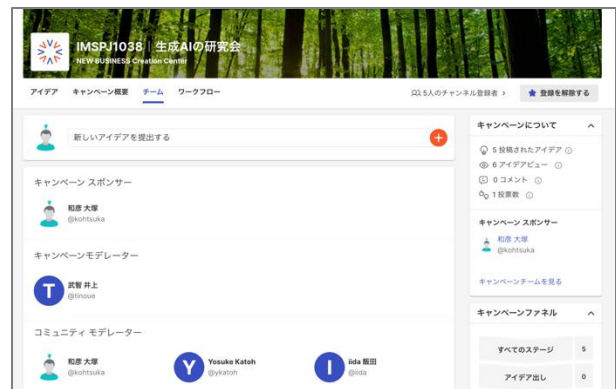
計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善



目的・テーマの明確化

- 概要
- 課題提示
- アイデア提出方法
- アイデア（知財）権利
- その他

オーナー・責任者・ファシリテーターの明確化

- 活動のスポンサーやオーナー
- モデレータ（ファシリテーター）

権限や権力、影響力のある人などが参加していると、アイデアが出やすくなる

プロセスの明確化

機会の特定からコンセプト検証までを具体的なプロセスに設定する。テンプレートとして活用もできる。

リーダーシップ

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

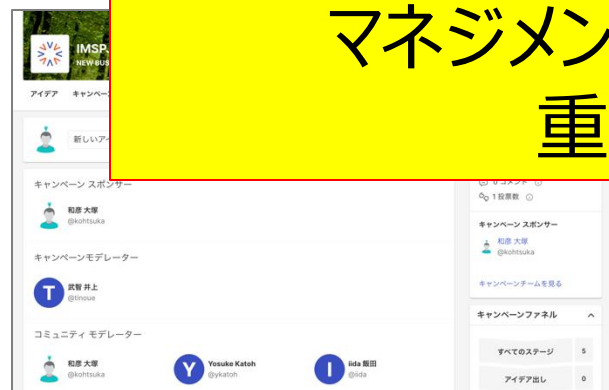
計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善



目的・テーマの明確化

- 概要
- 課題提示
- アイデア提出方法
- アイデア（知財）権利
- その他

マネジメントシステムの源泉となる重要な要素です。

権限や権力、影響力のある人などが参加していると、アイデアが出やすくなる

プロセスの明確化

機会の特定からコンセプト検証までを具体的なプロセスに設定する。テンプレートとして活用もできる。

計画

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

要求事項の要約

番号	項目	目的	具体的にやること
6.1	リスクと機会への対応	イノベーション活動の不確実性をコントロールする	<ul style="list-style-type: none"> - 失敗や遅延、技術的リスクの洗い出し - 起こりうる機会も見える化（チャンスの把握） - リスク対応策をあらかじめ計画しておく ※リスクよりも機会を優先することを考慮する。
6.2.1	イノベーション目標の設定	組織として何を実現したいのかを明確にする	<ul style="list-style-type: none"> - アイデア提出件数、コンセプト件数、各ステージの受付数などの具体的な目標を設定 - 方針・戦略（5章）と整合をとる ※新規事業件数などの目標を定めると、新規事業創出が目的になってしまうため方針・戦略の整合性を考慮すること
6.2.2	目標達成のための計画	目標を達成するための実行プランの作成	<ul style="list-style-type: none"> - 各目標に対して「誰が・いつまでに・どうやって」実行するか決める - 必要なリソース・担当・マイルストーンを定める



計画・目標の例

目標	担当部門	実行アクション	完了予定	測定方法
新規プロダクト開発	事業開発部	市場調査 → プロトタイピング → テスト販売などを行い、アンケートによって満足度を把握する。 コンセプトで設定した価値とアンケート結果の価値がかけ離れていないことを確認する	12月末	リリース数、顧客満足度
社内提案制度の導入	人事部	アイデア管理の仕組みを導入する。 提案およびアイデア提出フォームの設定、プロセスの設定 審査体制づくりなどを行い、従業員への認知活動と告知を行う	6月末	提案数、採用率

支援体制（11の支援体制）

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

ISO56002では、12の支援体制でしたが、ISO56001では戦略的インテリジェンスが削除されています。大項目としては、以下の5つとなります。

要求事項の要約（大項目）

番号	項目	目的	具体的にやること
7.1	リソース	必要な人・モノ・金・情報を確保する	- 人材・時間・予算の割り当て - インフラやツールの整備 - イノベーションに使える空間・設備の用意
7.2	能力（Competence）	メンバーが必要な知識・スキルを持っていること	- 研修・ワークショップの実施 - 学習機会の提供（例：デザイン思考、リーンなど）
7.3	認識（Awareness）	関係者が自分の役割やイノベーションの重要性を理解する	- なぜイノベーションが必要かを社内で共有 - 全社員への意識付け（例：イントラ、ポスター）
7.4	コミュニケーション	関係者間で情報を正しく伝え合うしくみをつくる	- 定例会議、共有ツール（Slack, Teams, ONES Wiki, IdeaScale, ONES Projectなど） - 成果・進捗をオープンにする文化づくり
7.5	文書化された情報	イノベーション活動のルールや記録を文書に残す	- 方針・手順書・アイデアログの整備 - 文書管理ルールを決める（バージョン・アクセスなど）

支援体制（11の支援体制）

7.1 リソースは、7つのリソースを定義しています。

要求事項の要約（中項目）

番号	項目	内容	実務での対応例
7.1.2 人材	イノベーション活動を支える適切な人材を用意する	<ul style="list-style-type: none"> - 外部の人材、内部の人材 - イノベーション推進チームの編成 - 社内外の専門家との連携 	内部の人材を把握：タレントマネジメントや人事システムなどで内部メンバーの経験・スキル・行動・思考特性などを把握 外部の人材を把握：ベンダー管理など外部企業の力量や実績、連絡先などを把握
7.1.3 時間	アイデア創出や試行錯誤のための時間的余裕を確保する	<ul style="list-style-type: none"> - 業務の中に「実験時間」を組み込む - 20%ルールやアイデア休暇制度 	例として：月曜日9:00-10:30まではイノベーション時間として、情報収集やアイデア出しなどの活動時間として確保するなど
7.1.4 財務	イノベーションに必要な資金を確保・配分する	<ul style="list-style-type: none"> - プロジェクトごとの予算枠確保 - 社内ベンチャー資金や助成金の活用 	イノベーション税制、研究開発費計上などの税法上の優遇制度の理由 助成金・補助金の利用 研究開発費（R&D）の計上 必要なインフラ整備や外部協力者への外注費・設備費などの計上など
7.1.5 インフラ	物理的・IT的な設備や環境を整備する	<ul style="list-style-type: none"> - 会議設備やITツールなどを含めて、イノベーション活動に必要なすべてのインフラを指す - プロトタイプ設備、共創スペース - アイデア管理ツール、クラウド基盤 	別紙参照
7.1.6 組織構造	柔軟かつ支援的な組織構造や報告ラインを設ける	<ul style="list-style-type: none"> - 横断プロジェクト体制、兼任ポジション - 階層を越えた意思決定の簡素化 	イノベーション推進部の設立 イノベーションアンバサダーの任命 イノベーション推進メンバーの選出 内部監査員の決定など
7.1.7 知的財産（IP）	特許・商標・ノウハウ等の知的財産を守り活用する体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> - IP戦略部門の設置 - 共同開発時の権利管理ルール 	特許・商標管理の仕組み 権利侵害のリスク管理 申請プロセス 知識・ナレッジ管理の方法・ルールなど
7.1.8 ツールと方法	イノベーションを加速させるフレームワークや技法を用意する	<ul style="list-style-type: none"> - アイデア出しの方法：デザイン思考、リーンスタートアップなど - 意思決定の思考法：エフェクチュエーション - TRIZ、ブルーオーシャン戦略などの活用 	ルール・ガイドライン、基準・規定に組み込む 教育・トレーニングを実施する

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

支援体制（11の支援体制）

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

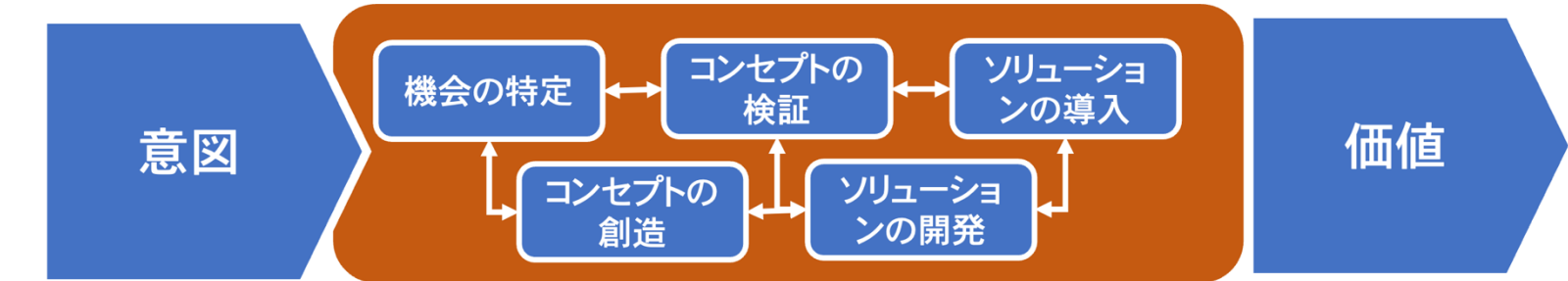
改善

別紙：代表的なインフラの例

インフラの種類	具体例	主な目的・効果
物理的な環境	<ul style="list-style-type: none"> ・アイデア創出のための共創スペース ・オープンラボ ・試作工房 	自由な発想・コラボレーションを促進
デジタル環境	<ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション管理ツール（IdeaScale） ・プロジェクト管理ツール（ONES Project、Jira、Trello、Asana、Backlog など） ・ナレッジ管理ツール（ONES Wiki、Confluence、NotePMなど） ・オンラインホワイトボード（Miro、IdeaScaleホワイトボードなど） ・社内SNS／コラボツール（Slack、Teams） 	情報の可視化、業務進捗の管理、部門間連携を加速
ITインフラ	<ul style="list-style-type: none"> ・高速ネットワーク ・セキュリティ対策済みサーバー ・API連携基盤 	安定した開発環境・社内外との安全な接続
実験・評価設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザーテストルーム ・VR／AR設備 ・3Dプリンター 	概念検証（PoC）や実証実験の実施
ナレッジ基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・社内ナレッジデータベース ・特許・技術情報データベース ・外部文献検索ツール 	情報探索・知識の活用・過去事例からの学習
外部連携拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・大学・研究機関との共創施設（産学協働） ・スタートアップハブ ・自治体連携センター 	社外との共同開発・新しい知の導入
テレワーク環境	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議システム ・リモートアクセスVPN ・仮想オフィスツール 	多様な働き方による柔軟なコラボレーションを可能に

活動

番号	項目	目的	具体的にやること
8.1	運用の計画と管理	計画通りにイノベーション活動が進むよう仕組みを整え、コントロールする	<ul style="list-style-type: none"> - イノベーションプロセスの手順書化 - 外部パートナーとの契約管理 - 変更や中断時の対応方針
8.2	イノベーションの取り組み（イニシアチブ）	各イノベーション活動をプロジェクトやプログラムとして管理する	<ul style="list-style-type: none"> - 目標・スコープ・成果の設定 - チーム編成・責任の明確化 - 進捗評価指標（KPI）の決定
8.3	イノベーションプロセス	新しい価値を生み出すための一連のプロセスを回す	→ 次の8.3.1～8.3.6のステップに沿って実行



ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

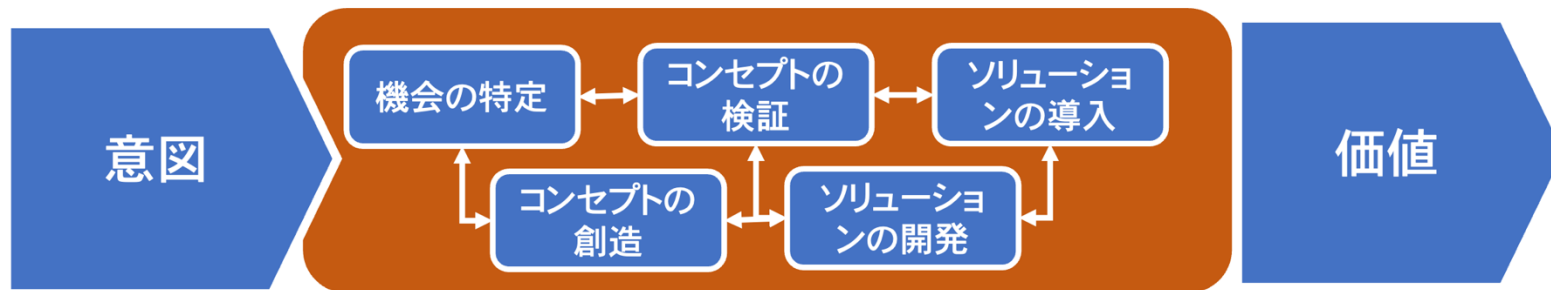
支援体制

活動

パフォーマンス

改善

活動



番号	ステージ	説明	主な活動例
8.3.2 機会の特定	チャンスを探す	「組織の状況」から得た機会に対して選定と優先順位付けを行う。 ※機会に対してアイデアを収集する。	「情報判定の仕組み」から発見した機会や脅威に対してアイデア収集（新規、改善など）を行う
8.3.3 コンセプトの創造	解決案を考える	機会に対してアイデアのブラッシュアップやビジネス企画などを含めたコンセプトを作成する	ブレスト/アイデア選定ワークショップ ビジネスモデルキャンパスやCOSTARを利用したプラン生成
8.3.4 コンセプトの検証	妥当性チェック	アイデアの実現性・市場性などをテスト・評価	プロトタイプ/ユーザーテスト/PoC実施 市場受入予測、技術的課題抽出、予算内外の判定など
8.3.5 ソリューションの開発	製品・サービス化	コンセプトを具体的なソリューションに落とし込む	実装設計/試作開発/社内承認プロセス 法的書類整備やマーケティング計画・販売計画など
8.3.6 ソリューションの導入	市場投入・展開	ソリューションを実際に顧客に届ける	販売準備/導入支援/フィードバック収集

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

パフォーマンス評価

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

番号	項目	目的	具体的にやること
9.1	モニタリング・測定・分析・評価	イノベーション活動の成果やプロセスの状態を数値・データで把握する	- 何を・どうやって・いつ測定するか決定 - イノベーション指標（KPI）を使って評価 - 記録を文書として残す
9.2	内部監査	イノベーション・マネジメントシステム（IMS）がルールどおりに運用されているかチェックする	- 年1回など定期的に内部監査を実施 - 問題点や改善点を洗い出す
9.3	マネジメントレビュー	トップマネジメントがIMS全体の有効性を評価し、方向性を見直す	- 成果・課題・外部環境の変化などを確認 - 改善・投資・新方針の判断材料にする

改善

ISO56001の基本体系

ISO56001の基本体系

要求事項の関連図

組織の状況

リーダーシップ

計画

支援体制

活動

パフォーマンス

改善

番号	項目	目的	具体的にやること
10.1	継続的改善	IMSが時代や組織に合った形で進化し続けるようにする	<ul style="list-style-type: none">- 評価結果（9章）や学びをもとに改善提案を実行- 実験や失敗から得た知見を活用する- 仕組みそのものを見直す
10.2	不適合と是正処置	問題が起きたときに原因を解明し、再発しないようにする	<ul style="list-style-type: none">- ミスや不具合への初期対応（修正・影響対応）- 原因分析と再発防止策の実施- 是正後の効果検証と仕組みの修正

イノベーション・マネジメントシステムについて

はじめに

ISO56000シリーズ

ISO56001の基本

ISO56002との差分

ISO56002との差分

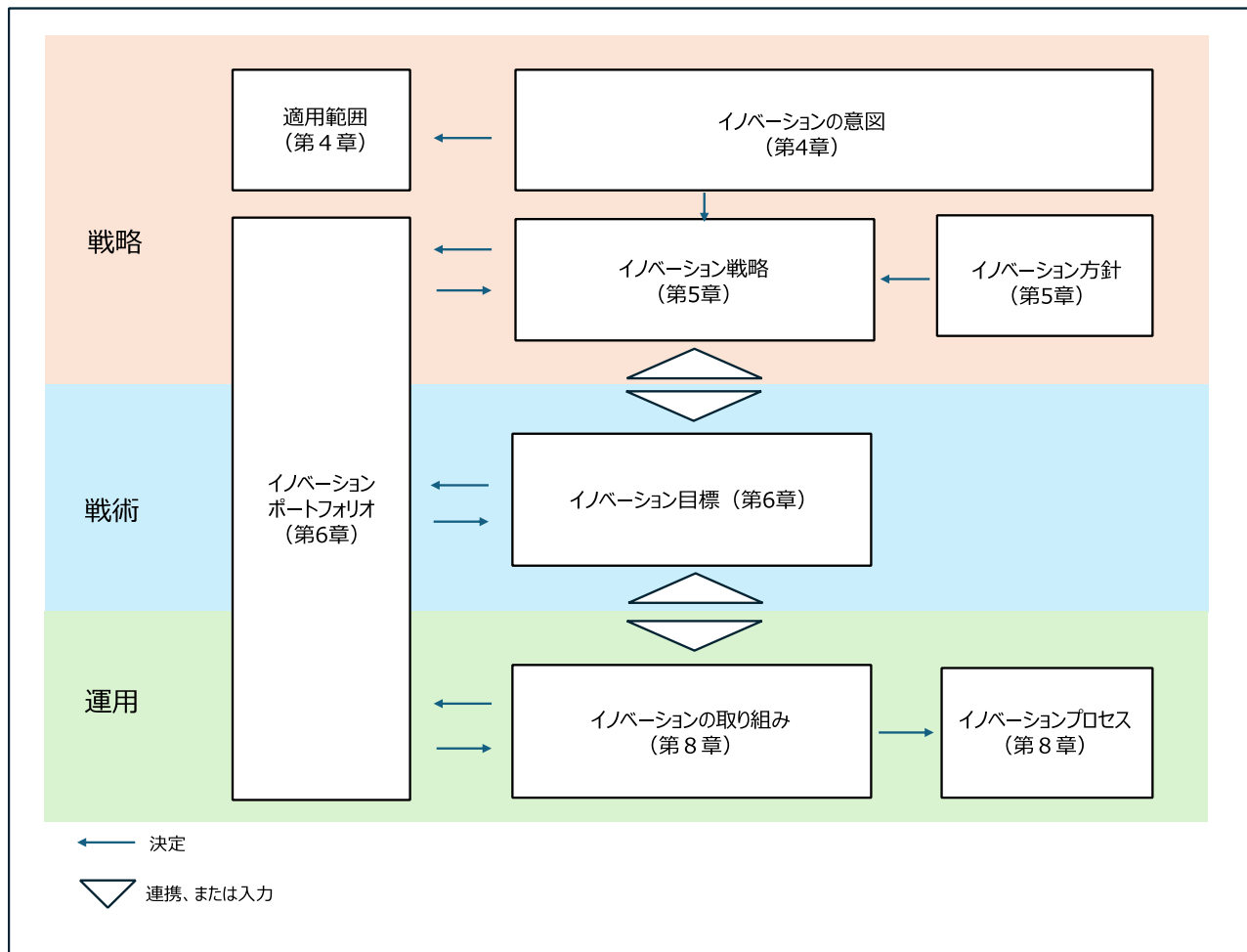
ISO56002との差分

章	名称	ISO56001で変更になった点
0	序文	「0.3.3 管理レベル」が追加された。 各章の関連性が明確になった。
1	適用範囲	表現が集約され、文章が短くなった。
2	引用規格	大きな変更なし
3	用語および定義	「3 用語と定義」が明確に記載された。
4	組織の状況	イノベーションの意図を決める際に考慮すべき点が追加。
5	リーダーシップ	「5.1.3 イノベーションのビジョン」が削除された。「5.1.3 変更管理」が追加された。 ----- 「4.4.2 組織文化」がリーダーシップに移動し、「5.4 イノベーション文化」として記載されている。 ----- ポートフォリオとの連携が追記されている。
6	計画	「4.4.3 協力」が、計画に移動し、「6.6 協力」として記載されている。
7	支援体制	「7.7 戦略的インテリジェンス」が削除されているが、「7.1.8 ツールと方法」の要件に戦略的インテリジェンスが追記されている。要求事項ではなく、具体的な例として記載される程度となった。
8	活動	ポートフォリオとの整合性や統合の記載が追加されている。
9	パフォーマンス評価	「9.2 内部監査」にて、是正処置とその後のフォローアップが内部監査の領域ではなくなりました。
10	改善	逸脱という文言がすべて削除

ISO56002との差分

ISO56002との差分

下図の「管理レベル」によって、イノベーションポートフォリオが重要な要素となっている。



アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて

イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

全体像

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラクチャ

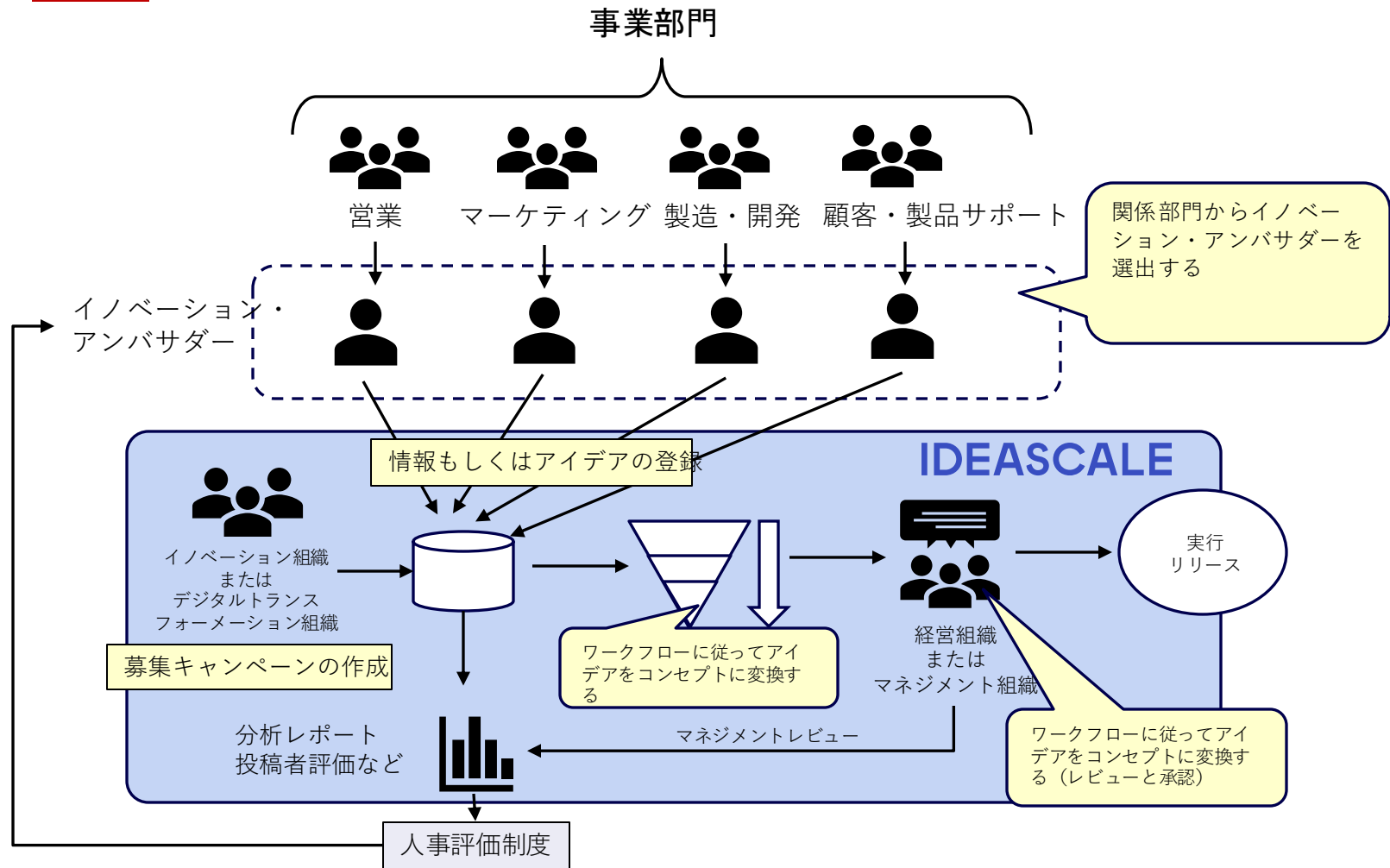
戦略的
インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス

課題

イノベーションが必要なことは理解しているが、どのように進めてよいか
わからない。スタンダードな仕組みでスモールスタートから始めたい



組織と力量

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラクチャ

戦略的
インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス

各役割の一覧

役割名称	役割概要	R (実行責任)	A (最終責任)	C (相談)	I (報告)
経営者 (Top Management)	イノベーションの方針と戦略の承認・推進		●	● (CIO, 部門長)	● (全社員)
イノベーション最高責任者 (Chief Innovation Officer: CINO)	全社的なイノベーション戦略の策定と推進責任者		●	● (CEO)	● (取締役会)
イノベーション推進責任者 (Innovation Program Manager)	プロジェクト実行計画、イノベーションの取り組みの進行管理	●	● (CINO)	● (現場、PM)	● (CINO)
イノベーション・アンバサダー (Innovation Ambassador)	イノベーション活動支援 (情報収集やアイデア収集など)、および活動認知を行う	●		● (IPM)	● (指定場所へ登録)
プロジェクトマネージャー (Project Manager)	各イノベーションプロジェクトの具体的実施 ソリューションやPoCなどのプロジェクト管理	●	●	● (チーム)	● (CINO)
ナレッジ管理マネージャー (Knowledge Manager)	ONES Wikiを用いたナレッジの蓄積と活用管理	●	● (CINO)	● (全社員)	● (CINO, PM, 各部門)
データアナリスト/戦略インテリジェンス責任者	IdeaScaleなどを用いたインサイト生成・戦略情報分析	●	● (CINO)	● (経営)	● (CINO, PM, 各部門)
従業員/現場リーダー	アイデア提供、機会の特定、コンセプトの創造	●		● (PM, CINO)	● (IAまたは指定場所へ登録)
品質管理責任者 (QMS連携) ※予定	ISO9001と統合した場合	●	● (CINO, QMS責任者)	● (PM)	● (CEO, 監査)
セキュリティ管理責任者	ISO27001と統合した場合	●	● (CINO, ISMS責任者)	● (PM, CINO)	● (CEO, 監査)

組織と力量

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラクチャ

戦略的

インテリジェンス

イノベーション

ポートフォリオ

全体プロセス

力量の証明

役割名称	役割概要	力量証明を研修
経営者 (Top Management)	イノベーションの方針と戦略の承認・推進	IMSAPスタジオ
イノベーション最高責任者 (Chief Innovation Officer:CINO)	全社的なイノベーション戦略の策定と推進責任者	IMSAPスタジオ／資格名称：Innovation Professional Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst 意思決定／エフェクチュエーションの基礎 プロジェクト管理／アジャイル研修
イノベーション推進責任者 (Innovation Program Manager)	プロジェクト実行計画、イノベーションの取り組みの進行管理	IMSAPスタジオ／資格名称：Innovation Professional Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst 意思決定／エフェクチュエーションの基礎 プロジェクト管理／プロジェクト管理の基礎
イノベーション・アンバサダー (Innovation Ambassador)	イノベーション活動支援（情報収集やアイデア収集など）、および活動認知を行う	IMSAPスタジオ／資格名称：Innovation Professional Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst ビジネスモデルキャンパスの基礎
プロジェクトマネージャー (Project Manager)	各イノベーションプロジェクトの具体的実施 ソリューションやPoCなどのプロジェクト管理	プロジェクト管理／プロジェクト管理の基礎 アジャイル研修／ウォーターフォール研修
ナレッジ管理マネージャー (Knowledge Manager)	ONES Wikiを用いたナレッジの蓄積と活用管理	ISO30401の基礎研修 SECIモデルの基礎研修 生成AIプロンプト研修 クリティカルシンキング
内部監査員	ISO56001およびISO56002の内部監査を行う	BSIジャパン社の内部監査員養成講座
データアナリスト／戦略インテリジェンス責任者	IdeaScaleなどを用いたインサイト生成・戦略情報分析	検討中
従業員／現場リーダー	アイデア提供、機会の特定、コンセプトの創造	Global Innovation Management Institute(GIMI) ／資格名称：Innovation Catlyst ※意思決定を行うものはエフェクチュエーション研修
品質管理責任者（QMS連携）※予定	ISO9001と統合した場合	検討中
セキュリティ管理責任者	ISO27001と統合した場合	検討中

制度・規定・ルール

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラクチャ

戦略的
インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス

イノベーション・マネジメントシステム(IMS) の規定類と各種文書情報 (システムコンシェルジュ作成)

文書体系																		
トップポリシー																		
イノベーション・マネジメントシステム基本方針 (IMS基本方針定義書に包括)																		
IMS基準 (総則)																		
IMS管理マニュアル																		
IMS基準 (細則)																		
イノベーション活動マニュアル	イノベーション管理規定	情報収集に関する規定	価値提案制度規定	会議運営規定	IMS適用宣言書	IMS適用範囲定義書	教育・訓練実施規定	ハンドブック	IMS内部監査規定	マネジメントレビュー規定	文書情報管理規定	知的財産管理規程						
記録																		
IMS基準 (総則) およびIMS (細則) から参照される各種記録や関連する規定・規則																		

- ※生成AIによって、質問すると返答される
- ※版管理はツール機能によって適合
- ※変更通知は、ツール機能によって適合

制度・規定・ルール

イノベーション・マネジメントシステム(IMS)の規定類と各種文書情報（抜粋）

The screenshot displays a document management interface. On the left, a sidebar lists various documents under the heading 'ISO56002 (イノベーション・マネジメント...)'. The selected document is 'イノベーション・マネジメントシステム基本方針書'. The main content area shows the title 'イノベーション・マネジメントシステム基本方針書' and a metadata line: '大塚 和彦 2023年10月21日 10時10分に編集しました'. The body text describes the company's commitment to customer satisfaction and the role of the IMS. It states that the company follows the basic policy of the IMS and lists three key activities: (1) Employee and stakeholder involvement, (2) Information input and reporting, and (3) Regular improvement activities. The document is dated '2023年7月1日' and signed by '代表取締役 飯田 健夫'. At the bottom, there is a section for 'アクティビティ' with a comment count of 0.

- ※生成AIによって、質問すると返答される
- ※版管理はツール機能によって適合
- ※変更通知は、ツール機能によって適合

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラクチャ

戦略的
インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス

制度・規定・ルール（内部監査シート）

イノベーション・マネジメントシステム(IMS)の内部監査シート（システムコンシェルジュ作成）

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラクチャ

戦略的
インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス

【イノベーション・マネジメントシステム/内部監査チェックリスト兼内部監査報告書】

監査実施日： 年 月 日（ ）

被監査部署名： _____	内部監査員部署名： _____
被監査者氏名： _____	内部監査員氏名： _____

【1】前回の監査結果により、本監査にて考慮すべき内容

【2】チェックリスト

質問項目	関連要求項目	質問事項	検証結果(判定)	検証の内容(監査実施中に記載)	検証した文書・記録など(実際に確認した文書名等を記載)	備考
4. 組織の状況						
1	4.1 組織及びその状況の理解 4.1.1 概論	組織は、定期的以下を決定していますか。 ①外部及び内部の論点のうち、組織の目的に関連するもの。 ②外部及び内部の論点のうち、組織のイノベーション・マネジメントシステムが意図した結果を達成するための、組織能力に影響を与えるもの。 ③潜在的な価値実現の機会が存在する分野。				
2	4.1 組織及びその状況の理解 4.1.2 外部の論点	組織は、外部の状況を定期的に調査及び分析していますか。				
3	4.1 組織及びその状況の理解 4.1.3 内部の論点	組織は、能力及び資産を含む内部の状況を定期的に分析していますか。				
4	4.2 利害関係者のニーズ及び期待の理解 4.2.1	組織は、以下を決定 ①イノベーション・マネジメントに関係する利害関係者 ②①の利害関係者要求事項 ③密接に関連する事及び時期				
5	4.3 イノベーション・マネジメントシステムの適用範囲の決定	組織は、イノベーションを定めるために、以下を決定 ①組織のイノベーション ②イノベーション・マネジメント ③適用可能性				

■ 是正処置報告書

※是正処置対象が内部監査で確認された場合は、内部監査員にて、1～5、7①～7③を記載の上、監査実施日から5営業日以内に被監査部門へ本書を提出。
 ※他の記載欄は被監査部門にて記載。
 ※是正処置対象が内部監査以外で確認された場合は、全入力欄を該当部門（是正処置対象確認者や是正処置担当者）にて記載。

項番	項目名	入力欄	備考
1	是正処置対象 確認者氏名	内部監査員： 山内 将暲	・是正処置対象が内部監査で確認された場合は、内部監査員にて、内部監査担当者氏名を記載。 ・是正処置対象が内部監査以外で確認された場合は、確認者等にて、確認者氏名を記載。
2	是正処置対象 確認日（被監査部門への報告日）	2023年10月23日(月)	・是正処置対象が内部監査で確認された場合は、内部監査員にて、内部監査報告日を記載。 ・是正処置対象が内部監査以外で確認された場合は、確認者等にて、確認日を記載。
3	被監査部門（是正処置担当部門）による 是正処置有効性レビュー 実施期限	2023年11月23日(木)	・是正処置対象が内部監査で確認された場合は、内部監査員にて、被監査部門への報告日から1ヶ月後の日にちを記載。 ・是正処置対象が内部監査以外で確認された場合は、確認者等にて、確認日（被監査部門への報告日）から1ヶ月後の日にちを実施。
4	是正処置有効性 評価日	2024年1月	・是正処置対象が内部監査で確認された場合は、内部監査員にて、次の内部監査実施月を記載。 ・是正処置対象が内部監査以外で確認された場合は、確認者等にて、次の内部監査実施月を記載。
5	是正処置有効性 評価者	2023 年度 内部監査員	・是正処置対象が内部監査で確認された場合は、内部監査員にて、次の内部監査の年度を記載。 ・是正処置対象が内部監査以外で確認された場合は、確認者等にて、次の内部監査の年度を記載。
6	報告書作成者 部署名		・是正処置担当部門にて記載
7	報告書作成者 氏名		・是正処置担当部門にて記載
8	被監査部門（是正処置担当部門）による 是正処置有効性レビュー		・是正処置担当部門にて記載

インフラストラクチャ

インフラストラクチャなど支援体制に要求される項目は、明確に定義すること

IMS1-015 | IMSインフラストラクチャー一覧表

大塚 和彦 2025年04月14日 15時02分に編集しました ◎ 12回の表示

IMS1-015 | IMSインフラストラクチャー一覧表

1.目的

当社は、IMS活動を支援するために必要なインフラストラクチャを準備し提供します。

2.ツールと方法

IMS活動を推進するためのツールと方法を次の通りに記載します。

適用・用途・方法	ツール名称	備考
文書およびファイル管理	ONES Wiki	30MB未満のファイルおよびすべての文書
ファイル管理	Microsoft365	大きなサイズのファイル
タスク管理、プロジェクト管理	ONES Project	IMSの全体プロセスの把握
アイデア管理	IdeaScale	アイデア抽出と蓄積
名刺管理	SanSan	取引先、顧客などすべての名刺情報を検索できる

3.利用場所

各ツールの利用場所については次の通りです。

3.1 ONES Wiki

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラク
チャ

戦略的
インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス

戦略的インテリジェンス

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

インフラストラクチャ

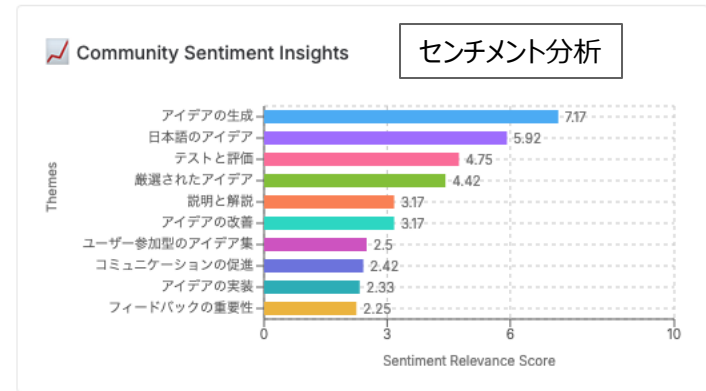
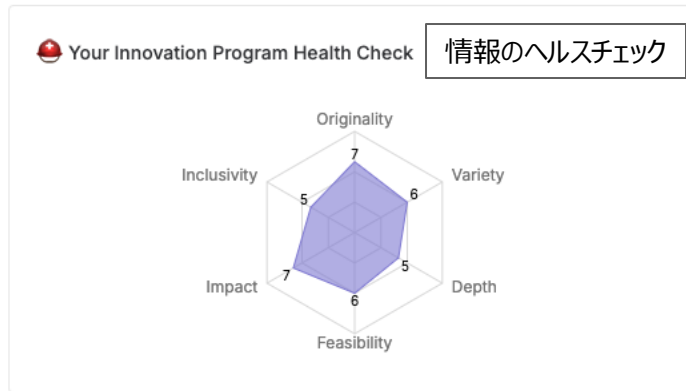
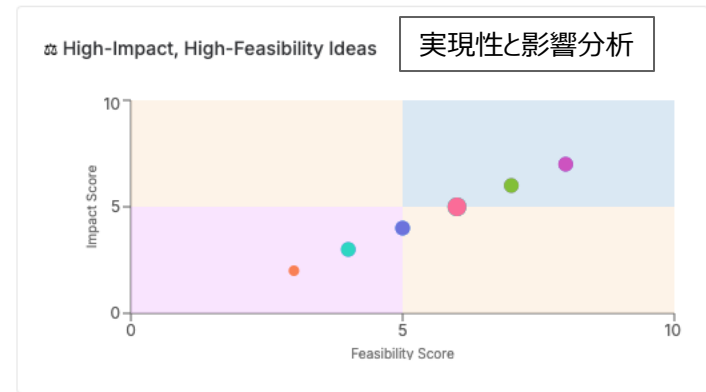
戦略的
インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス

テキストマイニング、生成AI判定によって、新しいインサイトを得る

Community NEW BUSINESS Creation Center	Campaign 生成AIがファシリテートしたアイデアや課題抽出の仕組み +2 more	Date Range 21 Jan 2024 - 21 Jan 2025
--	--	--



イノベーションポートフォリオ

イノベーション・ポートフォリオの例：単一の活動、複数の活動を横断して活動やROI（成果）などが表示

IMSの実装例

全体像

組織と力量

制度・規定・ルール

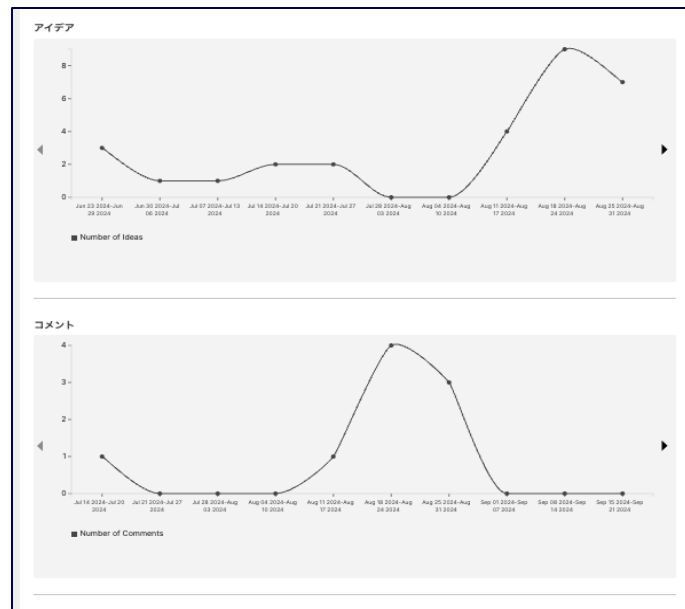
インフラストラクチャ

戦略的

インテリジェンス

イノベーション
ポートフォリオ

全体プロセス



アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて




イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

株式会社システムコンシェルジュの製品・サービスメニュー

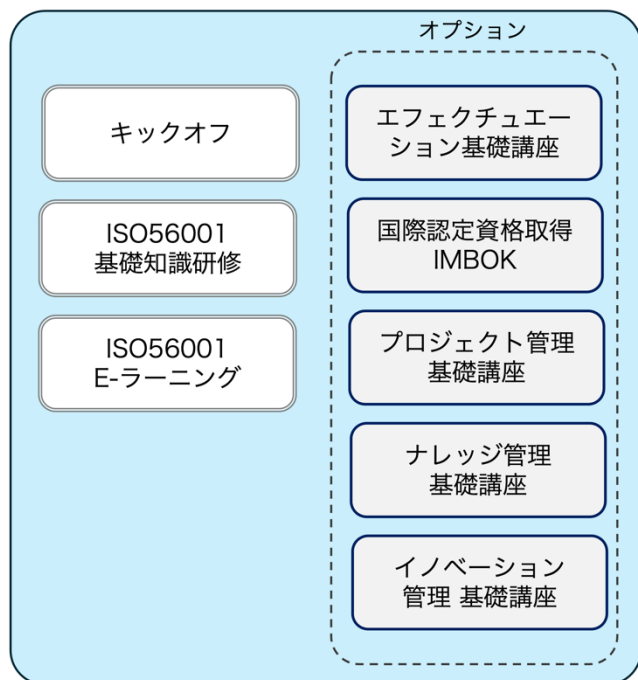
ICTツールをベースにした導入支援サービス

	イノベーション管理	ナレッジ管理	プロジェクト管理
方法論	国際標準規格 ISO56002/ISO56001 Global Innovation Management Institute	国際標準規格 ISO30401/ISO42001 日本文書情報 マネジメント	アジャイル・スクラム ウォーターフォール SAFeなど
ITツール			
支援	導入支援サポート 運用支援サポート	導入支援サポート 運用支援サポート	導入支援サポート 運用支援サポート
力量・教育	イノベーション人材育成研修 デザイン思考研修 イノベーション・ワークショップ ISO56002概論 IdeaScale基礎	ISO30401概論 ONES Wiki基礎	アジャイル・スクラム研修 ウォーターフォール研修 ONES Project基礎

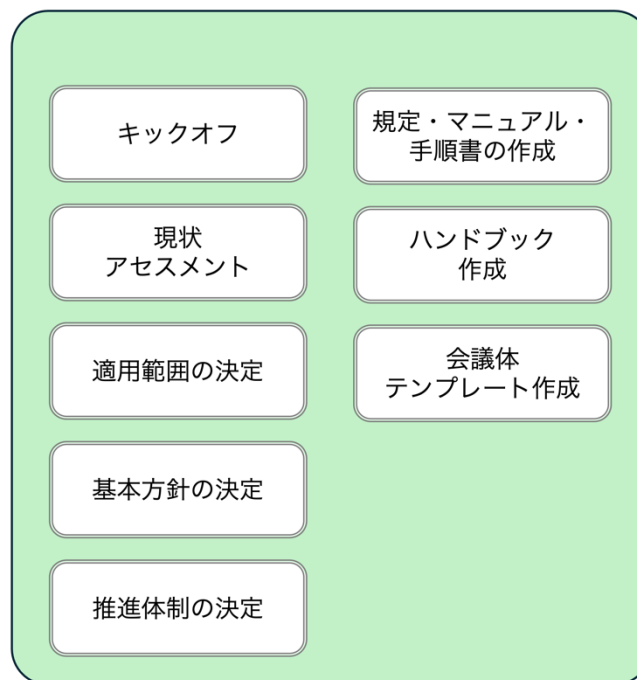
株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー

ISO56001 / ISO56002およびイノベーション関連支援サービス

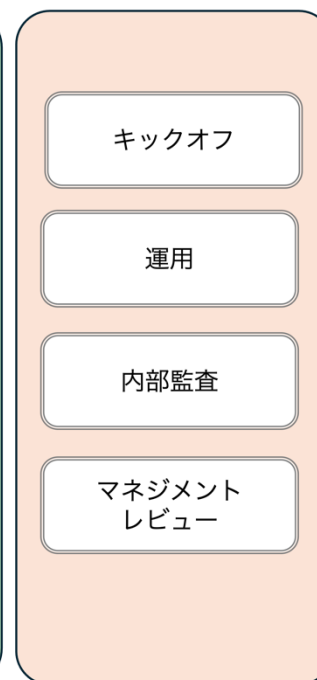
スタートアップ



導入支援サービス



運用支援サービス



株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー

イノベーション・マネジメント支援サービス

月額20万円からスタートできる

サービス項目	内容	料金（税別）	備考
IMS支援：スターター（基本）	支援回数：月2回 ※1回あたり2時間程度 WEBシステムによるQA対応（月10件まで）	200,000円/月額	原則、オンライン対応でのコンサル支援付き オンサイト対応の場合は別途調整となります。 必要に応じて、資料・テンプレートを提供します。 最小契約期間：3ヶ月
IMS支援：スターター（追加）	追加のオンライン支援（4時間ごと） WEBシステムによるQA対応（月5件まで）	100,000円/月額	基本契約に追加する。 基本契約期間内で、必要な月に追加可能
IMS支援：基礎知識研修	ISO56001およびISO56002の基礎知識を学ぶ研修	600,000円/開催	オンライン開催を想定（オンサイト対応の場合は別途調整） 1開催あたり5時間を想定/参加人数5名まで（1名単位で追加可能） 追加1名あたり80,000円（税別）となり、最大10名まで 研修テキスト、ChatGPTチャンネルの案内などのサービス提供あり
eラーニング（提供予定）	テキスト+動画で学べるオンライン講座 コースごとのサブスクリプション	月額 10,000～20,000円	各コースごとに契約、順次リリース予定

※導入支援サービス、および運用支援サービスについては、組織の規模や要件に応じて個別見積となります。

株式会社システムコンシェルジュのサービスメニュー(期待効果例)

課題

各部門単位でカイゼン活動、アイデア出しを行っており、部門を超えた視野でのアイデアやカイゼンが行いにくい。

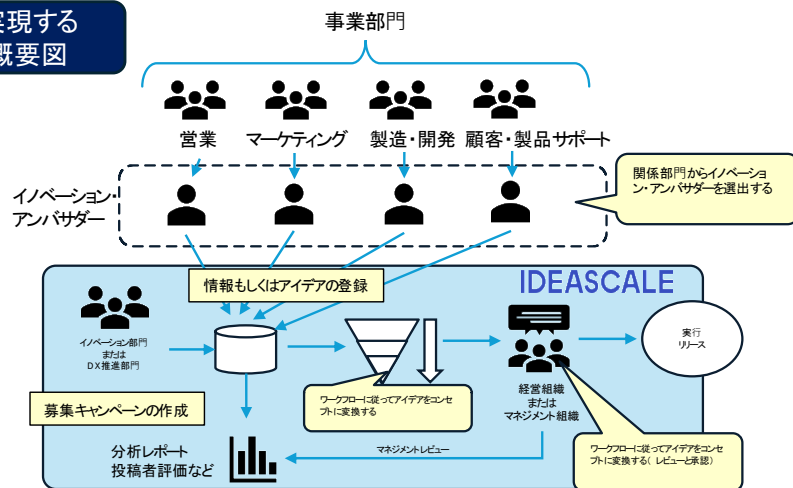
属人的(属部門的)なプロセスややり方によって会社全体のナレッジ財産(知識財産)になりにくくなっている。

求めたいこと

オール組織が共通のやり方で共通の意識をもって、効果の高いカイゼンやイノベーション活動(新しい価値の創出)を実現したい。

その共通活動を行うことで、オール組織の知識財産として将来に向けて蓄積・活用したい。

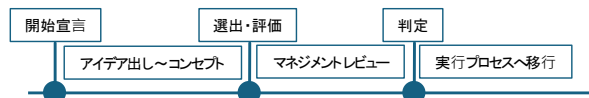
実現する概要図



必要な運営



一定期間のスケジュールでアイデアコンテストなどを実施(例: 四半期)する。同様に仕組みを運営している会社組織では、四半期ベースが多い。



必要な体制

役割	主な役割	備考
推進リーダー(座長)	活動の目的や意図を理解し、全体に意図を伝達する。組織横断的な俯瞰した視点を持ち、全体の活動を管理する役割を担います。	
推進ファシリテーター	各人員や部門を結合させるためのイベントやセレモニーを開催し、意識とモチベーションを高める。司会進行役的な役割を担います。	※IdeaScale社より支援可能です。
推進モデレーター	アイデアやコンセプトを評価し、次のフェーズへ移行する判断を行う役割を担います。理想は一個人ではなく、数名のチームで評価・検証を行うことが望ましい。	
推進メンバー	さまざまな情報ソース、または部門から情報やアイデア、課題を収集し、新しい価値や既存事業のカイゼン、価値向上のために組織にアウトプットを行う役割を担います。	

期待効果

場当たりの活動ではなく、予定された期間に限定して実施することで業務調整が行いやすくなり、活動が継続されやすくなる。そのため組織に新しい価値やカイゼンが継続的に生まれる。

イノベーション活動に取り組む組織では、投資家や株主からの評価も高くなり、時価総額も増加傾向になる。※価値協創ガイダンス2.0にも対応


情報公開サイト:イノベーション・ワールド

INNOVATION world
新時代のイノベーションとDXの最新情報メディア

記事一覧 特集 カテゴリ ABOUT 検索 [コンシェルジュへ相談](#)

ALL

すべての記事



変化をチャンスに変える働き方改革 ——イノベーションの土台づくり

働き方改革を単なる労働環境の改善ではなく、イノベーション創出の基盤と位置づけ、その関係性を解説します。柔軟な働き方や多様性の促進、心理的安全性の向上が組織と個人の創造性を高め、新たな価値を生み出す環境づくりにどのように貢献するかを、具体的な事例を交えて紹介しています。


INNOVATION WORLD 編集部
2025.04.14 #働き方改革



ビジネスコンポーザビリティ：変化に強い企業をつくるイノベーション戦略


企業が持続的に成長するためには「柔軟に再構成できる組織」が必要です。この記事では、Gartnerの「ビジネス・コンポーザビリティ」概念を中心に、変化に強い企業を実現するための戦略と実践ステップを解説。ISO 56001 / 56002との関係や、AmazonやMicrosoftの事例、日本企業の課題とその解決方法を示しています。変化をチャンスに変える組織づくりのヒントを提供しています。

INNOVATION WORLD 編集部
2025.04.10 #ISO56001関連 #人材育成と組織開発




ISO56002（イノベーション・マネジメントシステム）の認証を取得した企業

INNOVATION WORLD 編集部




（開催終了）3月4日セミナー開催 | 新たなビジネスを確実に生みスケールさせる方法

INNOVATION WORLD 編集部




4月16日セミナー開催 | はじめてのイノベーション・マネジメントシステム 国際標準規格：ISO56001 / ISO56002の基礎を知る

INNOVATION WORLD 編集部




イノベーション活動に対する評価の基本的な考え方

INNOVATION WORLD 編集部



2024年イノベーションに関する調査レポートを公開

INNOVATION WORLD 編集部



はじめてのイノベーション・マネジメントシステム

国際標準規格：ISO56001 / ISO56002の基礎を知る

私たちの知識・ノウハウを公開

<https://innovation.systemcon.co.jp/>

アジェンダ

自己紹介

会社紹介

本セミナーの目的

イノベーション・マネジメントシステムについて

イノベーション・マネジメントシステムの実装例

当社のサービス

資料のご案内 / アンケート

アンケート / 特典

アンケートにお答えいただいた方へ、

以下の資料をご案内させていただきます。

- 本日のセミナー資料（PDF版）
- ホワイトペーパー：日本企業の未来を拓くイノベーション管理（PDF版）



ご清聴いただきまして誠にありがとうございました。

お問い合わせ

メール : t-mkt@systemcon.co.jp WEB : <https://systemcon.co.jp/contact/>

電話 : 03-5577-5735